

# 第1回釧路市子ども読書活動推進懇話会(令和2年1月14日開催)

## 会議名

第1回釧路市子ども読書活動推進懇話会

## 開催日時及び場所

令和2年1月14日(火)午後1時30分／釧路市中央図書館 会議室

## 出席委員

8名

## 主な議題

- 1 釧路市子ども読書活動推進計画の進捗状況について
- 2 各機関・団体における読書活動の取組状況について
- 3 子どもの読書活動に関する課題について
- 4 その他

## 発言要旨

### 1 釧路市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

事務局：釧路市の子どもの読書に関する状況について説明

子ども読書活動推進のための取組(学校ブックフェスティバル、読書活動サポートセット貸出、読み聞かせ絵本ガイドの配布)について説明

委員：読書が好きな子の割合が高校生で大きく伸びている。この結果にはどのような背景があると考えるか。

事務局：難しいのは同じ生徒に調査を実施していないところ。今回回答した生徒がたまたま幼いころから読書が習慣づいている子だった可能性もある。

委員：朝読書の実施率 100%とはどういう基準なのか。毎日実施していなくても朝読書を実施しているとするのか。

事務局：回答の基準は学校によって異なると思うが、最終年度の調査に向けて整理しておきたい。

### 2 各機関・団体における読書活動の取組状況について

委員：小学校の読み聞かせボランティアで、週に1回読み聞かせをしている。他には図書室の飾りつけをしたり、クリスマスにはイベントを開催して大型絵本や紙芝居を読んで低学年に折り紙のプレゼントを渡したりしている。

委員：昨年の研究大会では読書をテーマに取り上げた。読書と学習の関係性等についての講演を行うことで、保護者や教員の皆さんには改めて読書は大切なことだと認識してもらえたと思う。

委員：特別打ち出しているものはないが、小学校でのボランティア活動はずっと続けている。ボランティアはボランティア、学校は学校という部分があるように感じており、橋渡しをしてくれるような存在がいればもっと両方で連携して活動ができるのではないかと考えている。現状維持でしかない状態はもどかしいが、常にどうしたらいいか考えながら活動している。

委員：新しい図書館ができてから祖父母や両親が本を借りて、孫や子どもに見せたりすることが増えていると思う。地域としては、そういった大人が本を読む環境が少しずつ増えたら、子どもたちも本を読むようになって考えている。

委員：幼稚園の参観日等で小さい弟妹が来たときは、お母さんがスマホを渡して待たせている場面も多く見られる。小さい頃からそういうものに触れているから国語ができなくなるという話も聞かしく、だから幼稚園では絵本の読み聞かせをしっかりやってほしいという学校の先生からの要望もある。

委員：勤めている中学校では、2年ほど前から図書室を毎日開けている。中学校にも

絵本等の簡単な本はあるので、まずはどんな本があるかを知ってもらい、それから図書室に来てもらうのがいいと思っている。教員には必ず図書担当がいるので、校内でも話し合う機会を設けられたらと思っている。

委員：年2回の交流会を通して、読み聞かせに携わるお母さん方のサポート的なことを行っている。お母さん方がどんどん力を合わせていくと絵本との繋がりもできてくるのかなと考えている。今市内のほとんどの学校図書館が電算化されているが、うまく活用されていないように感じている。図書担当の先生方やボランティアのお母さん方を対象にしたソフトの使い方についての研修会を開けたらいいねという話をしていた。せっかくソフトが導入されているのでうまく使いこなしてくれたらと思う。

委員：子どもと本の出会いをどう演出してあげるか、どうしたら来館者に図書館は楽しいところというイメージを味わってもらえるかということを考えながら図書館で館外支援や読書活動推進を行っている。

委員：学校に導入されているソフトはよく壊れてしまう。

事務局：ソフトについては所管が異なるので、詳細を把握できていない。

委員：桐ソフトというデータベースソフトを工業高校の先生と生徒たちが改良して、市内の小中学校に無償配布してくれたもの。図書担当の先生がパソコンに強いと自分が使いやすいようにカスタマイズしてしまい、先生が変わると使えなくなってしまうということが多々ある。

委員：今はもうソフトに関するハウツー本もなく、勝手が分からないまま触って壊してしまっても誰も対応ができないので、ソフトと関わりがある地域の方をお願いして直してもらっての繰り返し。

委員：システムについては所管が異なることもあるので、所管課にシステムについての課題を伝えてもらうということでもとめたい。

### 3 子どもの読書活動に関する課題について

事務局：学校ブックフェスティバルは効果的な事業であるが、読書に興味を示さなかった子どもへどう対応していくかが課題。また、推進の大きな柱としている事業を含め、乳幼児と高校生に対するアプローチがほとんどない状態。市としてネットワークづくりのきっかけづくりや橋渡し等を行っていかねばならないと感じている。

委員：ソフトを使うととてもやりやすくなるため、きちんとしたソフトを導入した方がいいのではないかと。連携ができるようなネットワークを構築していけたらいい。

委員：ボランティアの方々と学校図書館巡りをしたことがある。そのとき、読み聞かせの最中に担任の先生はそばで丸付けをしている場面があるという話をした。中学校だと図書室がだんだん開かずの間になってくる。図書の高文連で朗読をや

ってみてもらったが、なかなか好評だった。出会わせ方というのは大切なんだなという気がしている。

委員：子どもたちは小さい頃から本が好き。ただ、一人読みにはなかなか繋がっていない。そこは自分自身の課題でもあり、ボランティアの課題でもあると思う。でも学校の授業は全部読書。親御さんでも絵本の読み聞かせから自分で読むところにはなかなか繋がられない。

委員：ボランティアの裾野は広がっているのか、狭まっているのか。

委員：PTAだけでは増えていかない。例えば地域に図書室を開放する取組だとか、もっと地域に呼びかけてもいいのかなと思うが、子育てをしているとき、やっと手が離れたときに学校に来てくださいというのは気が引ける。まずはPTAでどうにかできないかとは思いますが、毎年呼びかけでもなかなか増えないのが現状。

委員：仕事を始めたり子どもの卒業で徐々に抜けていったり。下の子が入学したからボランティアを続けているという人も中にはいるが、ボランティアの数は少ない。

委員：中学校ではそもそもボランティアの募集をしていない。

委員：読み聞かせは中学校でやっても楽しい。しかし、今はきっとそういう時間もないし、そういう機会もない。

委員：大楽毛中学校の図書室は地域に開放していると聞いている。他の学校でもそういう傾向になりつつあるのか。

委員：地域コーディネーターが動いて下さってはいるが、セキュリティ面で不安に思う保護者も多い。ただ、時間と曜日を指定して、図書室に必ず誰がいる状態にできればできないことはないと考えている。地域の方も盛り込んでいけたらいいのかなと思う。学校の中でのボランティア募集はもう限界がきている。

委員：町内会や市P連等でそういった啓発は今まであったか。

委員：あまり話題になったことはないが、学校の中だけで読書活動を進めていくのではなく、図書館を起点として地域や家庭等が関係していけたらいいのかなと思う。地域としてどうしたらいいのかという部分は考えていかなければならないと思っている。

委員：うちの幼稚園に関していうと、子どもにどういう風に本を読んだらいいのか、どういう本を読んだらいいのか分からない親御さんは多く、言葉が分からないから読まなくていいと思う親御さんも多い。なので先生が子どもたちに読み聞かせをするときに親御さんにも一緒に見てもらい、家でも読み聞かせをしてもらえようにはしている。ボランティアを募集したことはない。

委員：幼稚園であんなに本に触れていたのに、小学校にあがると突然「勉強」「学習」というようになって、どんどん「難しい本を読まなきゃ」というふうになっていく。子どもに本を渡して読書を強制するのではなくて、親御さんの意識を変えていく取組ができると家庭でも読書環境をつくれると思う。読み聞かせができる環境は

大事なんだと思う親御さんが少しでも増えてくれたらいい。

委員：本がなぜ大事なのか分からない保護者は多い。子どもを育てるために必要だというのは分かるが、読書をして何があるのか。親も読まなくなってくる中で子どもに読書をすすめられるかといったらすすめられない。本を読む子と読まない子では学力に大きな差が出てくる。具体的にそういった部分に読書は関わってくるといことを親御さんがもう少し分かってくれると本から離れていく子も少なくなるのではないかと感じた。

委員：先生が読む、親が読む。そうすれば子どもも本を読むようになる。小説ではなくても、図鑑でも漫画でもいいと思う。毛嫌いしないで子どもが漫画を読んでも許容してほしいと思う。

#### 4 その他

事務局：来年度この組織を母体にして、現行の計画を見直す策定委員会を立ち上げようと考えているので、その際はぜひご協力いただきたい。具体的には4月になってから皆さんの出身団体へ案内をすることになると思う。今回公立図書館と学校図書館は切っても切り離せないものだと強く感じたので、こういった場以外でもお気づきのことがあればお気軽に一声かけていただき、関係各所で協力していけたらと思う。

委員：子どもの読書を育てていくために、まちの商店街に本を並べ、読書を育てていくという取組を行っているまちがある。いろいろな取組が重なって子ども読書ができていくと思うので、こういった場に出た意見を取り入れて地域に返していくという事が大切だと思っている。